

★「胴から元に張りがあるからコマセの振り出しも軽快です！」と金本も太鼓判



★剛樹ユーザーのメンバーもマダイを釣り上げた



▲魚を掛けると気持ちよく曲がり込む
▲弦巻が1キロ級をキャッチ



★抱卵した2キロ級。乗っ込み本番は目前!



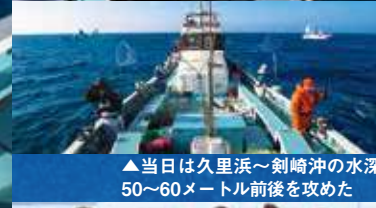
▶感度に優れるブランクスルー構造を採用
▼トリガータイプのオリジナルリールシートを搭載



▲和田が船中1枚目をゲット



▲アミゼスの小沢氏も1キロ級を上げた



▲当日は久里浜～剣崎沖の水深50～60メートル前後を攻めた



▲剛樹フィールドテスターによるテスト釣行に、剛樹ユーザーのメンバーが同行



★2キロを上げた本多は「マダイが走ると追従するように竿が曲がり込むのでヤリトリに安心感があります」とニューロッドを気に入った様子

感度とパワー、そして圧倒的な軽さ。剛樹・次世代ライト系コマセマダイロッド テスト始動



▲▲アミゼスのマダイ仕掛けは全長12～15メートルのテーパー仕様。マダイバリのカラーは金色とオキアミカラーの2色



▶マダイとイナダを上げた和田は「竿を立てればバットのパワーで魚が上がってきます」とご満悦



●本格的な乗っ込みシーズン目前の3月下旬、剛樹フィールドテスター陣が、次世代ライト系コマセマダイロッドのテスト釣行で三浦半島剣崎松輪港へ繰り出した。



▲「皆さんが釣りをしているのを見て、細身なのにコマセが振りやすい竿だと感じました。実際に持つとバットにパワーがありますね」と一義丸の立川弘樹船長も高評価

ご覧いただきたい。

今回、このプロトモデルのテスト釣行に参集した剛樹フィールドテスターは本多裕二、和田力彦、金本俊哉の3名と、サンゴ堂店長の須藤岳彦。このロッドの開発に携わるテスター陣を代表して、コマセマダイに精通した本多に特徴を聞くと、「ほぼ同じ長さの従来モデルと比べて圧倒的に細身に軽いのに、2キロ級のマダイを余裕で引き上げるパワーがあります。それと手元に伝わる感度が抜群で、視覚的にもしなやかな穂先が微細なアタリを表現してくれます。ショートロッドの軽快な操作性を持ちながら、置き竿にも対応する柔軟性を備えている、まさに次世代のライト系コマセマダイロッドです」とコメントしてくれました。

今回、このプロトモデルのテスト釣行に参集した剛樹フィールドテスターは本多裕二、和田力彦、金本俊哉の3名と、サンゴ堂店長の須藤岳彦。このロッドの開発に携わるテスター陣を代表して、コマセマダイに精通した本多に特徴を聞くと、「ほぼ同じ長さの従来モデルと比べて圧倒的に細身に軽いのに、2キロ級のマダイを余裕で引き上げるパワーがあります。それと手元に伝わる感度が抜群で、視覚的にもしなやかな穂先が微細なアタリを表現してくれます。ショートロッドの軽快な操作性を持ちながら、置き竿にも対応する柔軟性を備えている、まさに次世代のライト系コマセマダイロッドです」とコメントしてくれました。

「この竿をひとりでいうなら、究極のライト系コマセマダイロッドです」そう語るのは剛樹プロデューサー弦巻海謙。開発中の次世代コマセマダイロッドはショートモデルの軽快さと、スタンダードモデルのしなやかさとパワーを備えたライト系ロッド。グラス系素材を主としたブランクスに伝達率と強度を高める新素材を組み合わせた階層構造を採用することで、従来にない、驚くほどの感度と軽量化を実現。そのプロトモデルのスペックは全長2・15メートル、自重はわずか265グラム、オモリ負荷20～80号の胴調子、適合ハリス2～6号。細身のシルエットでカーボンロッドに近い張りを全体に持たせ、胴から元にかけてやや硬めに仕上げたパワーモデルとなっている。



★「ワンハンドで楽しく誘えます! 手持ちで攻める釣りが好きな人にはたまりませんね」とサンゴ堂の須藤氏も好感触